

## ■CIS各地報告

### <フィリピン>

日程 2014年10月27日(月)～11月9日(日)14日間

場所 ・Tsuneishi Heavy Industries(Cebu),Inc.

・デ・ラ・サール大学

・宿泊先:工場敷地内ゲストハウス

参加者 ・大阪大学 工学研究科2名 外国部学部2名

・デ・ラ・サール大学 工学部2名 教養学部2名

引率者 大阪大学4名

### <概要>

現地企業においてカリキュラムの考案や実施への準備が周到に行われており、参加学生全員大変充実した経験が得られたと思われます。

事前研修では、造船技術概論など、企業の専門分野の講義があったほか、実習でも鉄鋼の切断と溶接、造船工程の体験、新造船への乗船、新造船の引き渡し式への出席、さらには企業が支援する学校や病院の視察等、この企業ならではの内容が盛り込まれていました。

事前に課題設定を行い、資料等を準備させ、考えをまとめるようにしたので、現地到着後の活動開始がスムーズであり、活動全体も充実したものになりました。設定された課題は「海外日系企業の社会的責任」であり、現地企業が数年前から取り組んでいるテーマであったため、報告会でも企業からの質問やコメントが多く寄せられ盛況となりました。

大阪大学の外国語学部の参加者2名が、フィリピン語が堪能であったため、双方の学生が早くから忌憚のない意見交換を行うことができました。あた、フィリピン語＝打ち解けるための言葉、英語＝かしこまった議論の場の言葉という使い分けができていました。

双方の学生がお互いに相手国の言語文化に関心を持た2週間となり、自分たちの実習結果を英語で論理的にまとめ、報告会で大勢の出席者を前に発表できたことは、学生たちにとって大きな自信となったと思われます。

また現地学生は、2週間日系企業の敷地内に滞在することで、日本の企業文化を知ることができたと思われます。

今回は、宿泊先も企業の敷地内であり、移動が少なく安全であったため、CIS に集中でき、現地大学からも高評価をいただきました。